

2015（平成27）年度 事業報告

当財団は、定款で定める「大阪空襲の犠牲者を追悼し、平和を祈念するとともに、空襲を中心に大阪の人々の戦争体験に関する情報及び資料の収集、保存、展示等を通じて、戦争の悲惨さ及び平和の尊さを次の世代に伝え、平和を願う豊かな心を育み、もって世界の平和に貢献する」という目的に沿って、諸事業の実施に努めた。

今年度は戦後70年の節目の年であり、これまで進めてきた展示リニューアルについては、基本構想に基づく設計（基本・実施設計）を経て、2014年度に施工、今年度「大阪空襲を語り継ぐ、平和ミュージアム」として、装いも新たにリニューアルオープンしたところである。

また、今年度は「中期経営計画」の初年度にあたり、リニューアルした常設展示を核として、「戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝える」という法人のミッションを継続的・安定的に果たすとともに、利用者増を最重要目標として事業展開を図った。

なお、引き続き行政の支援を受けながら自主財源の確保に努めるとともに、これまで蓄積してきた所蔵資料の活用や関係機関・団体との協力・連携を深めながら、創意工夫により魅力ある特別展や企画事業等を実施した。

1. 展示事業

(1) 常設展示等

2階展示室

Aゾーン：昭和20年、大阪は焼き尽くされた

Bゾーン：世界中が戦争をしていた時代

Cゾーン：戦時下の大阪の暮らし

スロープ展示

空襲体験者の「証言と体験画の回廊」

1階展示室

Dゾーン：多くの犠牲を出し、焼け野原になった大阪

3階展示室

Eゾーン：たくましく生きる大阪、

Fゾーン：私たちの未来をつくっていくために

・映像コーナー、図書室の運営、映画の定時上映（講堂）

*多言語音声ガイド（日、英、中、韓）を新たに導入

(2) 特別展示

当館の所蔵資料の活用や関係機関・団体の協力を得ながら、工夫して特別展を実施した。

①「収蔵品から見る戦時下の人々の暮らしと大阪空襲」

- <趣 旨> 寄贈された数多くの収蔵品は、“物言わぬ語り部”である。展示リニューアルの過程で蓄積したノウハウや、整理・データベース化した収蔵品などを積極的に活用した。戦時下で生きた人々の記録、行動、そして思いを詳細に伝えることで、戦争の時代について考え、戦争の愚かしさを考える機会とした。
- <期 間> 2015(平成 27)年 6 月 16 日(火)～10 月 30 日(金)
- <内 容> 収蔵品(実物、写真、地図、絵画、映像など)約 100 点
- <参加者> 28,758 名

②「学童疎開と子どもたち」

- <趣 旨> 戦争末期の 1944(昭和 19)年、都市への空襲が激しくなってきたため、子どもたちは地方へ疎開した。親戚などの身寄りのある子どもは縁故疎開を、そうでない子どもは教師や寮母に引率され地方へ集団疎開をした。
- 今回の特別展では、収蔵品(家族との手紙や写真など)を通して、当時の子どもたちの姿などをより詳しく伝えた。
- <期 間> 2016(平成 28)年 1 月 29 日(金)～3 月 30 日(水)
- <内 容> 収蔵品(実物、写真など)約 50 点
- <参加者> 11,149 名

(3)その他の展示

①講堂内展示

- ・「空襲体験画」
- ・『平和』をテーマにした子ども絵画(大阪府の戦後 70 年事業によるもの)

②講堂前ホール「いのちのメッセージ」

(4) ワークショップスペース(3F)の有効活用

学校との連携による平和学習に関する資料展示などワークショップスペース(3F)の有効活用を図った。

2. 企画事業

(1)リニューアルオープン関連事業

①リニューアルオープン記念式典

<実施日> 4 月 30 日(木) 午前 9 時 30 分～午前 10 時 30 分

・内容

セレモニー

相愛高等学校音楽科生徒による合唱

代表理事挨拶

大阪府知事および大阪市副市長 祝辞

内部見学、刻の庭献花

知事・副市長、空襲体験者、児童・生徒、他

・参加者 100名

②リニューアル記念事業

<実施日> 5月31日(日) 午後1時30分～午後4時

「大阪空襲を語り継ぐ平和ミュージアム<ピースおおさか>

大阪から新たな平和発信に向けて～リニューアル記念講演会～」

・内容

第1部 「戦後70年の今、〈大阪空襲〉を考える ～米軍資料を手がかりに」

講師：工藤洋三氏（元 徳山工業高等専門学校教授、

空襲・戦災を記録する会全国連絡会議 事務局長）

第2部 「児童文学の視点から平和を考える

～知っていますか？大阪に模擬原爆が落とされたことを」

講師：令丈ヒロ子氏（児童文学作家）

・参加者 102名

(2)平和祈念事業

8・15 終戦の日、12・8 開戦の日、3・13 大阪大空襲の日など節目の時期に、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える機会として開催した。

① 戦後70年・終戦の日平和祈念事業

<実施日> 8月2日(日) 午後1時30分～午後4時

「講演会と歌で検証する戦争と平和」

・内容

ナビゲーター もず唱平（作詞家・ピースおおさか特別顧問）

第1部 講演会「広島を忘れて欲しくない」

語り部：中西巖氏（旧被服支廠の保全を願う会 代表、

広島平和記念資料館被爆 体験証言者）

第2部 歌

「疎開地でこんな歌を歌っていた」

ゲスト：成瀬國晴氏（イラストレーター）

歌：高橋樺子氏（徳間ジャパンコミュニケーションズ）

ピアノ：田中裕子氏

・参加者 223名

<実施日> 8月15日(土) 午後2時～午後3時30分

「戦争犠牲者追悼式と平和コンサート」

• 内容

協力：学校法人 相愛学園

平和コンサート

相愛高等学校音楽科および相愛中学校音楽科進学コース生徒による合唱

相愛大学音楽学部卒業生による弦楽四重奏

菊一輪 献花

昇鶴祭

• 参加者 230名

②開館の日平和祈念事業

<実施日> 9月20日(日) 午後1時～午後4時

『学童疎開』を知っていますか 一戦後70年目に伝えたいこと

• 内容

協力：国民学校と学童疎開を考える会

第1部 映画上映「ボクちゃんの戦場」

監督：大澤 豊（こぶしプロダクション）

原作：奥田継夫

出演：前田吟、藤田弓子 ほか

ロケ地：島根県加茂町、出雲、大井川、大阪・追手門学院

第2部 シンポジウム「学童疎開の伝え方」

パネラー

赤塚康雄氏（元 天理大学人間学部教授）

「学童疎開を学生にどう伝えたか」

奥村誠一氏（国民学校と学童疎開を考える会 理事長）

「語り部による子どもの反応」

吉田房彦氏（紙芝居による語り部）

「語り部の仕方、教えます」

コーディネーター

奥田継夫氏（「ボクちゃんの戦場」原作者）

「再びの学童疎開」

• 参加者 116名

③開戦の日平和祈念事業

<実施日> 12月6日(日) 午後1時～午後4時

「ピースシネマスペシャルデイ ～開戦の日に終戦を考える～」

• 内容 映画上映

第1部 テーマ「終戦前日の空襲」

上映作品「大阪大空襲 vol.5 大阪大空襲7月－8月編」

企画：大阪府 協力：ピースおおさか

第2部 テーマ「終戦後も続いた戦争」

上映作品「樺太 1945 年夏 氷雪の門」

監督：村山三男

原作：金子俊男「樺太一九四五年夏・樺太終戦記録」

出演：二木てるみ、鳥居恵子、岡田可愛、藤田弓子、木内みどり、
北原早苗、若林豪、黒沢年雄、南田洋子、赤木春恵、
丹波哲郎ほか

・参加者 112名

④大阪大空襲平和祈念事業

<実施日> 3月13日(日) 午後1時30分～午後2時

「幻の卒業式」

・卒業証書受領者 9名

<実施日> 3月13日(日) 午後2時～午後4時

『語り継ぎ部』育成のための講演会 ～ヒト・モノ・キオクを伝える～

・内容

出演者：兼清順子氏(立命館大学国際平和ミュージアム学芸員)

北村美香氏(株式会社ノルテム取締役。元滋賀県平和祈念館学芸員)

第1部 経歴や活動等を交えた講演

第2部 「語り継ぐ」をテーマとしたシンポジウム

・参加者 89名

(3)戦後70年記念協力・連携事業

- ・「平和をテーマにした子どもの絵画募集等事業」(大阪府事業、ピースおおさか協力)
事業内容
「平和」をテーマにした絵画を募集、選考、表彰するとともに、絵画展を開催した。
また、最優秀作については作品を拡大の上、「ピースおおさか」の外壁に掲示した。
- ・「大阪空襲等の写真パネル作成事業」(大阪市事業、ピースおおさか協力)

(4)教員のための平和学習講座(大阪府教職員自主研修支援事業)

- ・日時 8月5日(水) 午前10時～午後4時
- ・内容 講義とフィールドワーク(館内及び大阪城周辺の戦跡)
- ・参加者 37名(高校5、中学12、小16、支援1、私立4、その他1)

(5)戦跡ウォーク

- ・日時 毎月第2日曜日(8、9、12、3月は除く)
- ・内容 館内(展示室1階、2階、3階)と大阪城周辺に残る戦跡を巡る
コース(中回り・東回り・西回り)
- ・参加者 120名

(6)ウィークエンド・シネマ

- ・日 時 毎週土曜日 午後2時～
- ・内 容 当館所蔵の視聴覚資料(ビデオ・DVD・16ミリ)を活用し、映画会を開催
- ・参加者 1,905名

(7) 親子まつり

① 夏休み

- ・日 時 7月21日(火)～8月21日(金) 午後2時～
- ・内 容 アニメ映画上映
- ・参加者 262名

② 冬休み

- ・日 時 12月22日(火)～1月7日(木)
- ・内 容 アニメ映画上映
- ・参加者 81名

③ 春休み

- ・日 時 3月22日(火)～4月3日(日)
- ・内 容 アニメ映画等
- ・参加者 37名

(8)平和紙芝居

- ・日 時 第1・2木曜日 午前10時～午前10時20分
第3・4金曜日 午前10時～午前10時20分
- ・参加者 1,204名

(9)府政学習会・ピースおおさか見学会「平和について学ぶ」

(大阪府府政情報室との連携事業)

- ・参加団体 4団体
- ・参加者 193名

(10)生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 2015

(大阪市都市整備局企画部住宅政策課事業への協力)

- ・日 時 11月1日(日) 午前10時～、午後1時～、午後3時～
- ・内 容 ガイドツアー(館内および屋上見学)
- ・参加者 19名

3. 出前事業

(1) 展示

① 御津八幡宮夏祭り

- ・日 時：7月14日(火)～15日(水)
- ・場 所：御津八幡宮
- ・内 容：パネル展示、パンフレットの配布等
- ・参加者：13,860名

② 中央区民まつり

- ・日 時：10月18日(日)
- ・場 所：なにわの宮跡公園
- ・内 容：パネル展示、パンフレットの配布等
- ・参加者：48,000名

③ 南大江地域文化祭

- ・日 時：12月6日(日)
- ・場 所：南大江小学校
- ・内 容：パネル展示、パンフレットの配布等
- ・参加者：3,500名

④ イオンモール鶴見緑地

- ・日 時：平成28年1月29日(金)～2月2日(火)
- ・場 所：イオンモール鶴見緑地
- ・内 容：パネル展示、パンフレットの配布等
- ・参加者：146,813名

⑤ 大阪市立中央図書館

- ・日 時：平成28年2月5日(金)～17日(水)
- ・場 所：大阪市立中央図書館（西区）
- ・内 容：パネル展示、パンフレットの配布等
- ・参加者：58,178名

(2) 「語り部」の派遣による戦争記憶の伝承

学校等からの「語り部」の派遣依頼に対し、関係団体（大阪戦災傷患者・遺族の会、大阪大空襲の体験を語る会、国民学校と学童疎開を考える会）の協力を得て、「語り部」の紹介を行った。

登録協力団体：3団体（大阪戦災傷患者・遺族の会、大阪大空襲の体験を語る会、国民学校と学童疎開を考える会）

- ・参加者：14,582名

4. その他の事業

(1) 「北朝鮮人権侵害問題啓発」

＜政府拉致問題対策本部・大阪府・府内全市町村主催、ピースおおさか協力＞

- ① パネル展示 12月10日（木）～16日（水）
- ② 映画上映等 12月13日（日）午後1時30分～3時55分

・内容

政府の取り組み報告

映画「めぐみー引き裂かれた家族の30年」

アニメ「めぐみ」

- ・参加者 240名

5. 大阪空襲死没者を追悼し平和を祈念する場の運営

大阪空襲死没者の追悼及び恒久平和を祈念するため、2005(平成17)年度に整備した「刻の庭」の管理運営を行うとともに、大阪空襲死没者名簿の管理、新規登録申出の受付等を行った。

(1) 空襲死没者名簿（原簿）の管理

- ・追加登録者数 13名
- ・名簿の訂正 3名
- ・名簿の削除 1名
- ・登録者数計 9,077名（平成28年3月31日現在）
（内訳）公開9,031名※、非公開46名
※刻の庭前で公開。

6. 資料の収集・提供

(1) 資料の収集・提供

- ・「図書類及び物品類の管理等の基準」に基づき、実物資料、視聴覚資料、図書資料の適切な収集と管理に努め、収蔵資料の充実を図った。
- ・「収蔵品管理システム」により、これらの資料の整理、保存、公開を行った。
- ・空襲などの体験者からの証言の収集

《資料収集件数》

	寄贈資料	購入資料
実物資料	62	0
視聴覚資料	19	17
文書資料	20	0
図書資料	76	0
計	177点	17点

【平成 25・26年度】（参考）

	寄贈資料	購入資料
25 年度	337 点	5 点
26 年度	244 点	4 点

「平成 28 年 3 月末」の資料収集件数（収蔵検索システム登録件数）

- ・物品 9,111 点
（実物 3,727 点、文書 1,561 点、視聴覚 3,704 点、その他 119 点）
- ・図書 33,283 点
- 合計 42,394 点

(2) 平和学習資料の貸出し

学校、官公署、市民団体等に、平和学習用資料(写真パネル、空襲体験画、ビデオ、D
VD、16 ミリフィルム等)の貸出しを行った。

	小学校	中学校	高 校	自治体	その他	計	利用人数※
写真パネル(体験画含む)	27	14	5	54	42	142	
実 物 資 料	4	1	1	6	8	20	
16 ミリ (アニメ)	0	0	0	1	0	1	
16 ミリ (ドキュメント)	0	0	0	0	0	0	
ビ デ オ	35	47	3	5	21	111	
D V D	197	138	9	50	115	509	
紙 芝 居	6	0	2	1	13	22	
合 計	269	200	20	117	199	805	

【利用人数】247,835 名

（参考）平成 25 年度利用人数 134,039 名、平成 26 年度利用人数 120,422 名

7. 広報・啓発

(1) ホームページの運営

「ピースおおさかホームページ」により施設利用案内や事業広報等の情報提供を行った。

- ・アクセス数：102,292 回（内、日本は 98,066 回）

(2) 印刷物の作成・配布

- ・リーフレット「展示のしおり」

8. オリジナルグッズの制作、販売、管理等

(1) 「展示の手引き」改訂版の作成検討

展示リニューアルを踏まえ、「展示の手引き」改訂版の作成検討を行った。（発行は
28 年度の予定）

(2) グッズ制作の検討

- 展示リニューアルに合わせ、新たな魅力あるミュージアムグッズを制作した。
- ・クリアファイル、一筆箋の制作

9. 自主財源の確保と「ピースおおさか友の会」等への加入促進

あらゆる機会等を通じて、企画事業・特別展示の原資である平和基金への寄付とともに「ピースおおさか友の会」会員の新規拡大に努めた。

《「ピースおおさか友の会」入会状況》

- ・個人会員：105名
- ・団体会員：11団体（22口）

10. 施設の保全・補修

長期的視点にたった施設修繕計画の策定に着手（28年度策定予定）するとともに、必要な補修を適宜行った。

11. その他

(1) 「展示アドバイザー委員会」の設置

財団施設の展示及びこれに関係する資料の調査研究について、専門的知見に基づく意見を聴取するため、「展示アドバイザー委員会」を設置した。また、展示内容について、意見を聴取した。